



ご購入ありがとうございます

2月1日(土)

発行所 長野日報社
〒392-8611 諏訪市高島3 0266-52-2000代
©長野日報社2020

高大連携 研究の成果

駒ヶ根で 全国発表会 ものづくり学び合う

工業系高校と大学の連携推進を目指す駒ヶ根市の第7回「全国ものづくり高大連携発表会&マッチングフォーラム in 駒ヶ根」(長野日報社など後援)は1月31日、同市の駒ヶ根総合文化センターで開いた。地元駒ヶ根工業高校をはじめ県内外の高校生らによる高大連携の研究成果の発表や展示を行い、ものづくりについて学び合った。

生を中心にものづくりへの関心を高め、地元で活躍する人材育成につなげる狙いで開いている。

共同研究に取り組む高校生や地元の企業関係者らが参加。冒頭のあいさつで伊藤祐三市長は「基幹産業のものづくりの振興はこの地域の発展に不可欠」とし、高校生に対し「ものづくりに大きな夢を持ち、将来の地域を担う人材になってほしい」と期待を寄せた。

活動発表で駒ヶ根工業高校は、諏訪東京理科大学と連携して進めている、農業への無線通信ネットワークで行った無線の伝送実験について、井上慧一さんが説明した。展示には県内外の高校や大学8校のほか、市内企業7社も出展。基調講演は、日本アイ・ピー・エムのUXコンサルタント堀越諒太さんとミライロのHRビジネスパートナー、シャルマ・ポニー仁さんが「次のものづくりステージへ導く人材育成」をテーマに話した。(高島剛志)



高大連携研究について発表する駒ヶ根工業高校の井上慧一さん

全国各地の高大連携の事例を学び高校

活動発表で駒ヶ根工業高校は、諏訪東京理科大学と連携して進めている、農業への無線通信ネットワークで行った無線の伝送実験について、井上慧一さんが説明した。